

「卒業証書」とは学びの証(あかし)であり、大いなるチケットである

北野小学校長 丹羽 郁人

卒業証書というのは、六年間の学びを修了しましたよという証。その学びは、もちろん授業で得た知識・技能だけではない。

六年間の担任の先生方はもちろん、多くの教職員が子供たちに関わってきた。また、教職員だけでなく、地域の方、「北野小を守る会」「北野学区見守り隊」など多くの献身的なボランティアの方、「児童育成センター」や「子供の家」の方々……、さまざまな場面で、本当に多くの方々が直接的、あるいは間接的に関わり、子供たちに接していただいた。

子供たちの、毎日の安心・安全が守られた。いちごの植え方、稲の植え方を覚えた。蚕の幼虫を放流した。子供たちの町探検に快く引き受けていただいた。

……子供たちが出会ったすべての人、もの、ことに感謝したい。子供たちの「はじめて」の体験が、子供たちの成長の物語そのものに違いない。

子供たちは未熟だ。

子供たちは叱られたこともあっただろう。悩んだこともあったかもしれない。また、いろいろなトラブルもあっただろう。だが、そのトラブルを学びに変え、現在に至っている。

これからもトラブルはあるだろう。悩むことも、壁にぶち当たることもあるかもしれない。だが、それを、彼らは学びに変える。それを、信じている。

どうか、自分の歩みに胸を張ってほしい。

卒業証書というのは、六年間の学びを修了しましたよという証。

そして、卒業証書というのは、次のステージに進むための大いなるチケット。自分らしく、その道を歩んで行ってほしい。

次のステージに旅立つ彼らを見送りたい。心を込めて、その背中を見送りたい。

大丈夫。

大丈夫。

行ってらっしゃい。

(二〇二二・三・一九)

